



2021年度看護学部学術委員会（学内学術交流推進小委員会）報告：学術活動

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学看護学部 公開日: 2022-04-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 看護学部学術委員会（学内学術交流推進小委員会） メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000647

学 術 活 動

2021年度 看護学部学術委員会（学内学術交流推進小委員会）報告

看護学部学術委員会（学内学術交流推進小委員会）

1. はじめに

学術委員会は、看護に関する研究・実践・教育における能力向上のために、学外・学内の学術交流の方針やあり方を検討する委員会である。2021年度は3つの小委員会（学外学術交流推進小委員会、学内学術交流推進小委員会、研究活動広報小委員会）に分かれて活動をしてきた。今回は、学内学術交流推進小委員会の活動について報告する。

学内学術交流推進小委員会は、看護学部の各教員が取り組んでいる研究・実践・教育活動を教員間で共有し、お互いに刺激し合い、学んだりすることで、各教員の学術活動を更に高める機会を作ることを目的に活動している。本年度は昨年に引き続き、「My Premium（マイプレミアム）を語る会」と称し、教員の取り組みを紹介して、そのテーマに関連することについて意見交換する会を3回企画した。

2. 活動紹介

1) 第1回「My Premium を語る会」

日 時：2021年4月22日 16：30～17：30

講 師：成人・老年看護学部門

佐々木千佳 先生

テーマ：「ふたつのコップに支えられて」

内 容：

佐々木先生のこれまでのご経験、大学院での研究、今後の研究の展望や社会貢献について発表いただいた。

臨床の場でふと浮かんだ疑問を、認知行動科学に基づいて追及され、あらゆる専門分野の研究者等とのつながりを持ちながら研究活動に邁進される様子を惜しげもなく披露された。

常日頃から研究への関心が高く、学会での交流や、他大学のゼミに参加するなど、積極的につながりを維持して活動される姿勢に大きな刺激を受け、自己の研究活動にとっても示唆に富むお話であった。

2) 第2回「My Premium を語る会」

日 時：2021年8月5日 15：30～16：30

講 師：成人・老年看護学部門

片桐 和子 先生

テーマ：「科研、やっと思いた！」

内 容：

片桐先生が臨床経験の中で抱かれた疑問を研究のテーマとして追及していく経緯とともに、科研費申請書類の具体的な組み立て方や書き方などを詳細にご紹介いただいた。

研究の意義を強調するために、年度毎に目標を見直ししながら、自身の「セルフエフィカシー研究」の経験を強みとして、「新規性」「独自性」を盛り込むために広い視点で社会の動向に目を向け、注目度の高い内容と関連付けたアピールも必要だということをお話いただいた。

研究のための研究になってしまわず、研究そのものに「意味があるものなのか」「看護として実現可能なのか」を常に問いながら、臨床経験での強い思いを奮起させて取り組まれる姿に刺激を受け、有意義な会となった。

3) 第3回「My Premium を語る会」拡大企画―「私と研究」を語る会

日 時：2022年3月16日 16：30～18：00

講 師：成人・老年看護学部門

坂本 祐子 先生

小児・精神看護学部門

大川 貴子 先生

保健科学部 作業療法学科

倉澤 茂樹 先生

保健科学部 診療放射線科学科

長谷川功紀 先生

テーマ：各講師の研究紹介

内 容：

保健科学部教員との学術交流、共同研究の足掛かりを得るために、学内・学外学術交流推進小委員会の共同企画として実施する。それぞれの教員の取り組んでいる研究、研究に向き合う姿勢等についてお

話を伺う。

3. おわりに

「My Premium を語る会」を通じて、教員同士の活動を知ることができ、専門分野の広さや深さを共有することができる。

学内学術交流推進小委員会として、今後も看護の質の向上に貢献できるよう、刺激し合える機会を企画していきたいと考えている。